

寒冷地地形談話会通信 1979年 11月

[10月例会について]

- ① 小野有五氏 [筑波大] 1978年夏にこなわれた IGC の周氷河地形の working group の巡検の報告があった。ベルギー・オランダでは、古上陸にもとづいて、最終氷期のくわしい編年ができあがっている。[そのまともは、たとえば Maarleveld (1976) Biol. Pergl., No. 26, 59-78.] この時間軸にのせられた多くの周氷河現象 (アイスウエッジキャスト, インボリューション) がスライドで紹介された。砂ヒースと交互に形成された大規模なインボリューション, アイスウエッジキャストやインボリューションの水平断面, アイスウエッジキャストとそれ以外の形態との区別, おなじ場所の異なる層に形成された現象の重なりなど興味深い現象が数多く紹介された。露頭で見られる形態のほか、化石化の可能性がある地形, プッシュモレーンの地形も紹介された。[参考図4枚が配られた]。

- ② 岡沢修一氏 [千葉英和高校] 1979年7月-8月にパキスタンカラコルムのフコグ周辺でこなわれた氷河・地形の観察結果の報告がスライドを用いてこなわれた。発表者らは、1978年にはカラコルムのフコグ川流域を歩き回り、今回との比較がまともいはずおもしろいであろう。今回得られた新知識などは報告されなかったが、スライドからの印象では、カラコルムの氷河の氷期以来の変動は、

他の地域とかなり異なり、こゝろといふところだろう。はっきりした2万年前位のモンスーンがあまり見あたらないようだ。本格的な調査が期待される。

発表者らは、北京経由でパキスタンへ行ったため、天山の水河と地形や、北側から見たカラコルム山脈の全貌など、興味深い写真が紹介された。

- ③ 岩田 修二 (智立大) 11月19日-21日にあこなわれるハルビンラオロ記念シンポジウムの紹介がされた。【ビラ配布: 同封】

[11月例会について]

平川 一臣氏 (山梨大)

ドイツの地形学と地理学 — 2・3の話題に

ついて —

11月17日(土) 14:30

明治大学神田校舎。お茶の水駅下車。

場所は当日大学院の校舎の入口に貼り出します。

ふるって御参加ください。

12月例会は、12月15日(土) 東大本館であこなわれる予定。

	以上	文責	岩田
事務局	岩田	03-717-0111	内線 389
	相馬	03-812-2111	内線 4580